

新里選挙区 当選議員

2月7日の市議会議員補欠選挙（新里選挙区）で当選した議員は、次のとおりです。



瀬谷 幸雄
(新政会)

住所

新里町鶴ヶ谷478番地

電話

74-4069

常任委員会

建設委員会

特別委員会

水質調査特別委員会

議会運営委員会

委員の変更

議会運営委員会の委員は次のとおりとなっております。

議長

委員 小滝 芳江

副委員長 寺口 正宣

委員 津布久 博人

委員 福島 賢一

委員 相沢 崇文

委員 佐藤 幸雄
委員 石井 秀子
委員 荒木 恵司
委員 岡部 純朗



(市議会議事室)

平成22年度 予算を可決

この定例会では、平成22年度桐生市一般会計予算及び12事業の特別会計予算並びに桐生市水道事業会計予算について審議を行い、それぞれ可決しました。

なお、平成22年度予算を可決するにあたっては、各会派の代表者など6人の議員が総括質疑を行うとともに、予算特別委員会（委員14人で構成）を設置し、2日間にわたり慎重に審査を行いました。

総括質疑における主な質疑に対する市当局の答弁は、次のとおりです。

財政運営については

今後、過去に実施した大型事業に係る元利償還が順次完了することに伴う公債費の減少や職員数削減に伴う人件費の減少などが見込まれる一方で、景気低迷の影響などにより落ち込む市税収入をはじめとした自主財源の確保が大きな課題となっていることから、担税力強化に向けた企業誘致の推進などにも積極的に取り組んでいきたい。

平成二十二年度の予算編成にあたっては、事務事業総合評価の最終評価を最大限活用することなどにより、事業費の節減を図る中で、「子育て支援」、「元気なま

ちづくり」、「安全・安心なまちづくり」を三本柱とした効果的な予算配分に努めるところである。

子育て支援については

妊娠、出産から成長段階に応じて安心して子どもを産み、育てられるまちを目指し、「子育て環境づくりの推進」、「こどもの健やかな成長支援」、「子育て環境の基盤整備」を柱とした各種施策を推進しているところである。

平成二十二年度は、子育て支援の基本計画である「次世代育成支援行動計画」の後期五か年の開始年度となることから、福祉、保健、医療、教育の各分野がより

注視していききたい。

国民健康保険事業の運営については

一層の連携を図りながら、精力的な子育て支援を推進していきたい。

本来、独立採算が原則となっている国民健康保険事業特別会計であるが、平成二十一年度予算では、医療給付費の増加や税収の伸び悩みなどにより拡大した収支不均衡を補うために、一般会計からの法定外繰入金約三億三千万円を補正予算で措置することとなった。

このような緊急的な予算措置を今後も引き続き行っていくことは極めて困難であることから、今般、税率改定を決断したところである。国民健康保険事業を取り巻く環境は全国的に厳しい状況となっており、現在、全国市長会においては、「国又は都道府県を保険者とする国民健康保険制度の再編・統合などを早急に検討すること」について、国に要望しているところである。桐生市としても、昨年十一月に厚生労働省が設置した「高齢者医療改革会議」における今後の議論の動向を注視していききたい。

注視していききたい。

厚生総合病院への支援については

平成二十一年度から医師確保のための支援を強化している中で、昨年十月には、それまで不在となっていた循環器科の常勤医師が確保されるに至った。

同病院は、桐生地域における唯一の公立病院として、救急医療や高度医療などの不採算部門を担っていることから、その経営は厳しいものとなっているが、引き続き地域の拠点病院としての機能の維持・充実が図られるよう、できる限りの支援を行っていきたい。

緊急雇用対策については

平成二十一年度には、市が実施している二十八件の事業において、八十八人の雇用を確保したほか、「ホームヘルパー資格取得支援事業」を通じて、福祉分野での就業を希望する二十二人に対して研修受講にかかる費用の助成を行った。

二十二年度には、二十件の事業において、四十人の雇用を予定している。

企業誘致については

ぐんま総合情報センターに派遣している職員を通じて首都圏企業に関する情報収集などに努めながら、あらゆる機会をとらえて積極的なPRを行っていきたい。現在造成工事を進めている「板橋上赤坂工場適地」への企業誘致については、

各方面からの引き合いもあり、企業の進出意欲が高まるような優遇措置や販売価格の設定に向け、さまざまな角度から検討を行ってるところである。

幹線道路の整備については

今年三月の全線開通を目指して整備を行ってきた中通り大橋線であるが、開通後も引き続き橋梁部の四車線化に向けた工事を進めていく予定である。それと同時に錦琴平線の区間を昭和橋付近にまで延伸するための地元地権者との調整や測量などにも引き続き取り組んでいきたい。

また、北関道伊勢崎インターチェンジと新里・黒保

根地区、さらにはみどり市東町を結ぶ「渡良瀬軸道路」や国道五十号前橋笠懸道路などの広域的な幹線道路の整備構想についても、みどり市をはじめとした関係市との連携を図りながら、早期実現に向けた取り組みを行っていきたい。

特別支援教育については

現在市内三か所に分散している養護学校と言語・難聴・情緒通級指導教室の各機能を一か所に移転集約した特別支援教育施設を平成二十二年四月に開設すべく、旧菱中学校の施設改修を行う予定である。

この施設が市街地に比較的近い場所に設置されることに伴い、校外学習の充実などの効果も期待される。



(旧菱中学校)

賛成討論

長引く景気低迷を背景とした市税収入の減少などにより桐生市の財政状況はたいへん厳しいものとなっており、政権交代に伴う国の政策の動向もいまだ不透明な状況となっているが、「子育て支援」、「元気なまちづくり」、「安全・安心なまちづくり」を柱とした各種施策の推進に期待しているところである。

「子育て支援」に関連する施策においては、みどり市との連携による「赤ちゃんの駅」設置や幼稚園における給食回数拡大などの取り組み、「元気なまちづくり」に関連する施策においては、板橋上赤坂工場適地への企業誘致、群馬大学工学部との緊密な連携ならびに緊急雇用対策事業などの取り組み、「安全・安心なまちづくり」に関連する施策においては、高齢者介護サポーター事業や厚生総合病院への支援などの取り組みに対して特に期待を寄せている。

国民健康保険事業特別会計への法定外の繰り出しを断念し、保険税の値上げに踏み切らざるをえない厳しい財政状況の中、市税の収納率向上や行政コスト削減などに向けた取り組みが、より一層強化されることを望む。

反対討論

平成22年度予算編成方針には、「選択と集中による重点配分」という指針が掲げられているが、国民健康保険事業への一般財源の重点配分を行わずに、保険税の値上げに頼ることには賛同できない。

国民健康保険税の値上げを行う一方で、その滞納者に対して被保険者証を発行せずに、医療を受ける機会を制限するような対応は、市民の命と健康を守ることに對する配慮に欠けるものである。

経費削減に向けた十分な努力もなく安易に行われている退職手当債の起債、多くの市民の意に反した指定ごみ袋の導入、市立幼稚園において21年度と同様にされる専任園長の配置、経費削減を本意とした学校統廃合の推進などについても、妥当性を欠いているものと言える。

予算編成にあたっては、まずは桐生市の現状に見合った適正な財政規模を設定したうえで、それを踏まえた財政フレームを作成しておくべきである。また、外郭団体などへの補助金・委託料などについても、費用対効果を勘案のうえ、公平かつ公正な視点から見直しを行うべきである。